

研究の紹介

沖縄でのソバ圃場の選定

－圃場の排水性がポイント－

【研究の出発点】

沖縄本島南部の大宜味村^{おおぎみ}では、九州沖縄農研で開発したソバ品種「さちいずみ」の栽培が始まっています（現在約18ha、写真1）。生産されたソバは高品質で、大宜見村内で加工されています。沖縄で日本ソバは珍しく、味も良いことから好評を得ています。

そのため、ソバの栽培圃場を広げようとの取り組みもさかんです。しかし、一部の圃場では生育不良が認められています（写真2）。その原因は、圃場の排水性にあるように考えられました。そこで、圃場の排水性に着目し、ソバ圃場との関係を検討してみました。

【排水性とソバ圃場】

圃場の排水性では、①地形（河川の位置、地下水位）→②排水路の水深（排水路の水位が低く保たれているか）→③圃場の物理性（暗渠の有無、透水性、うねの高さ）の順に検討するとわかりやすいことがあります。大宜味村のソバ圃場の場合は、地形条件が排水性に大きな影響を与えているように考えられました。

そこで、地形条件から、Ⅰ 尾根圃場（排水性良好）、Ⅱ 谷地圃場（排水不良）、Ⅲ 低平地圃場（排水不良）、Ⅳ 傾斜地圃場（中間的）と圃場を4

つに分類しました（図）。その結果、谷地圃場、低平地圃場ではソバを導入したものの、生産性が低く、サトウキビ栽培に変更した圃場が多いことがわかりました。逆に、排水の良い尾根圃場では、安定してソバの栽培が続けられています。

ソバ栽培を導入する場合、排水性良好な圃場の選定が大切なポイントと考えられます。この場合、地形に着目することで、おおまかに圃場を選定することができます。

どうしても排水が悪い圃場で栽培する場合、圃場を改良するなどの対応が必要になります。対策としては、アップカット（逆転）ロータリによる耕うん同時畝立て技術などの利用が考えられます。

【今後の予定】

現在、地形条件だけでなく、圃場の化学性、物理性、生産履歴等を組み込んだ栽培ポテンシャルマップ（その土地の潜在的な生産性を示した地図）の作成に取り組んでいます。作物分野、土壌分野、農業土木分野が関係することで有益なマップを作成したいと考えています。

【生産環境研究領域 島 武男】
【企画管理部 原 貴洋】
【作物開発・利用研究領域 鈴木 達郎】



写真1 沖縄県大宜味村でのソバ栽培
(品種: さちいずみ)



写真2 湿害で生育不良となった圃場
(沖縄県大宜味村大工又地区)



図 沖縄県大宜味村のソバ圃場の地形分類